

や岩陰など、ポイントを変えて試行する。これを何度も何度も繰り返して、ようやくキラリ光る砂金が一粒見つかった。

1948年1月24日。サクラメントの北方、Sutter's MillでJames Marshallが水車小屋を作っていて、偶然に金を発見。純度85%。それが呼び水になって、10万人もの49ers (forty-niners)が一獲千金を夢見て全米から殺到した。人口1,000人だったサンフランシスコも20万都市に変貌。だが、皮肉なことにGold Rushによって最も利益を得たのは、実は「山師」を相手にした商売人たちだった、とも言われている。

日本語の「雪山賛歌」で知られるフォークソングの"Clementine"は、実は49ersを歌ったものだった。In a cavern / In a canyon / Excavating for a mine / Dwelt a miner / Forty-niner / And his daughter Clementine.

## Hmong【mán/món】モン族

セントポールでBattle Creek Elementary Schoolを訪問した。シルビアのクラスにはラオス出身の子供たち(Hmongs)が目立つ。28人クラスの半数だ。ミネソタ州には2万7千人のモン族。何故これほど多いのだろうか、僕は強い疑問を抱いた。

明らかになった事実は・・・ベトナム戦争の時代、山岳地形に詳しく勇壮な彼らは、情報提供のためCIAに利用された。『反共の秘密部隊』として極秘任務を命ぜられたのだ。極秘の理由は、ジュネーブ協定で、米国によるラオスへの内政干渉が禁止されていたからだ。モン族は民族自治を熱望し、北ベトナムやラオスの共産主義傀儡政権とは敵対関係にあった。貧しい耕作を糧とする生活から、突如、大量虐殺をもくろむ生化学兵器の実験場に投入され、死闘を繰り返す。結果、南北ベトナム人が百万人規模の死者数だったのに対し、米兵が5.8万、一方モン族は兵士の家族も含めて、何と20万人規模の死者を出した。

敗戦後も尚、共産勢力につけねらわれ、多くはメコンを渡ってタイの難民キャンプに落ちていく。だが、そこでも彼らは不遇な扱いに甘んじる。その後、米(16万人)・仏・豪etcに移住していく。古くはモンゴルやシベリアを起源とする彼らだが、中国へと移住するも迫害を受け、失意の中で200年前、ラオス周辺に移動。だが、そこも安住の地ではなかった。祖国を持たない流浪の民。極秘作戦ゆえ、米国内でも真相を知らずに差別の眼で見つめる一般市民が多い。ベトナム戦争の知られざる後遺症が、また一つ。

【参考】ベトナム戦争(1964)、湾岸戦争(1991)、アフガン攻撃(2001)、イラク攻撃(2002?) 2002.10.10米下院で対イラク武力行使決議を可決。それを牽制するかのよう翌10.11カーター元大統領にノーベル平和賞が授与された。

## D card【áidí: káod】身分証明書

サンフランシスコの夜、セブンイレブンにカリフォルニア巻きとCoorsを買いに出かける。店員がすかさずIDの提示を求めてくる。アメリカでの生活に欠かせないID。大きな買い物・レンタカー利用・アルコールやタバコ購入・・・旅行者なら、ほぼ例外なくパスポートをIDとして利用するだろう。だが、長期滞在の場合、パスポートは盗難の恐れもあって携帯に不安が残る。そこで、国際免許証や運転免許試験場発行のID(運転しなくても可)を活用。勿論、学生ならステューデントIDだ。



アルコールは21歳から。レストランやスーパーも20歳以下に販売すると処罰の対象。公園など屋外での飲酒も禁止。タバコは州により喫煙政策が異なるが、カリフォルニア州では21歳から。言うまでもなく、公共の場での喫煙は全面的に禁止。写真はセントポール